



ドイツからの
環境・エネルギー
先端レポート

環境経済報告書② 有望市場はグリーン

●松田 雅央(まつだまさひろ)
1966年盛岡生まれ。カールスルーエ市在住ジャーナリスト。
1992年東京都立大学工学研究科大学院修了、1995年渡独。
趣味はサイクリング。自然豊かな農村地帯を走る爽快さが好き。
<http://www.umwelt.jp/>

前回のコラムで述べたように、ドイツの経済と環境はその結びつきを一層深めています。環境関連製品の世界貿易に占めるドイツの割合は世界トップ。そして環境産業の雇用者は、少なく見積もっても180万人(就業者全体の5%)を下りません。ドイツ環境省がこの1月に初めて発行した「環境経済報告書(2009年)」を基に、ドイツの描く持続可能な社会のシナリオを読み解いてみましょう。

不況突破のカギは環境投資

少し古い資料になりますが、環境投資の産業別割合(2004年、図1)で最も大きいのは化学産業(22.2%)、それに自動車産業(11.8%)、金属産業(11.1%)が続きます。

世界不況の今、取りざたされているのが、経済成長の牽引役であった自動車産業の建て直しです。特に、経営の傾いた親会社GMから独立し再建を目指すオペルが、30億ユーロの政府支援を受けられるかが注目を集めています。

オペルに限らず自動車産業に強く求められているのが、省エネ自動車の開発と環境対策であり、今後とも環境投資が減ることはないはず。それが世界競争に勝ち抜くための道なのです。

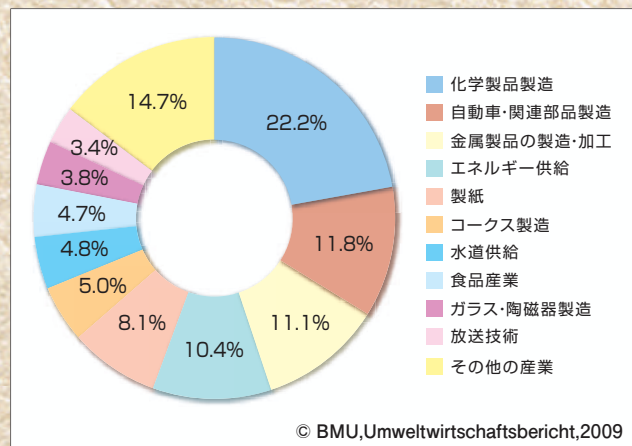


図1 環境投資の産業別割合(2004年)
出所:ドイツ連邦統計局資料

グリーン市場の成長率は3~8%

ドイツの環境関連市場、いわゆるグリーン市場は今後も着実な成長が見込まれ、2005年の1兆ユーロから2020年には倍以上の2.2兆ユーロに拡大するというのがドイツ環境省の予想です(図2)。

内訳は「エネルギーの効率化」「エネルギー生産」といったエネルギー分野が大部分を占め、中でもバイオ燃料・バイオ素材を中心とする、自然素材と省資源に関連する市場の年平均成長率は8%に達します。グリーン市場はグリーンエネルギー市場と言い換えてもよいほどです。

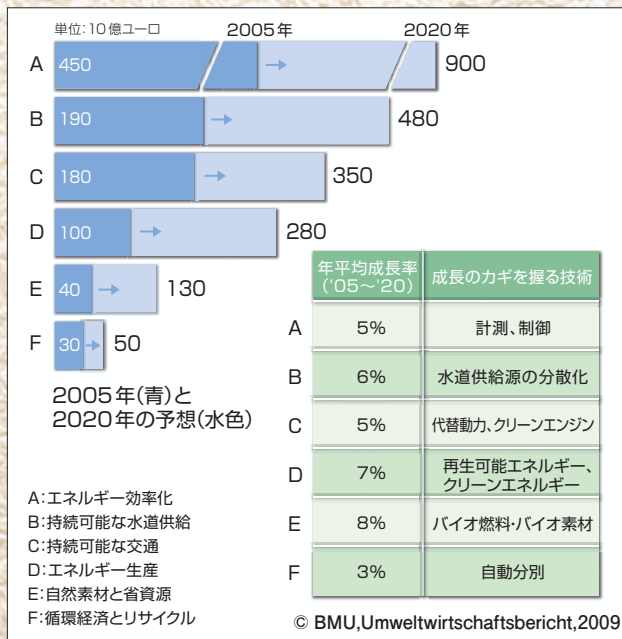


図2 成長するグリーン市場

出所:ローランド ベルガー ストラテジー コンサルタント(2007年)

もうひとつ「持続可能な水道供給」も目を引きます。日本のように水に困らない国に住んでいると実感できませんが、水道供給は切迫した世界的課題であり、これからは大規模水源に頼るのではなく地域ごとの小規模水源を確保し、いかに効率よく利用するかが重要ということでしょう。

エコロジカルな経済成長には、効率的で持続可能なエネルギーが不可欠。そして、それをカバーできるのは再生可能エネルギーだけであり、経済発展が生み出す諸問題を解決するためにも環境技術革新が不可欠というのがドイツの立場です。

環境政策とは経済政策であり、同時に雇用政策、投資政策、技術政策とも言えるでしょう。

